令和4年度下半期スケジュール

11月　文化財講座「鉄道まちあるき」（要申込）

企画展「多治見の鉄道史」の関連講座として、まちあるきイベントを開催します。

日時：令和4年11月12日（土）　10:00～12:00（受付は9:30～）
集合場所：多治見市役所駅北庁舎正面玄関（音羽町1-233）
定員：20人（申込10月3日（月）9:00より先着順）　参加費無料
講師：宮嶋　浩氏（バロー文化ホール館長）
※雨天の場合は講座「多治見の鉄道跡」（駅北庁舎４階大ホール）に変更します。

北小木川の草刈（要申込）

市天然記念物「北小木のホタル」が生息しやすい環境にするために、北小木川の草刈を行います。

日時：令和4年11月13日（日）9:00～12:00（雨天：11月20日（日）に延期）
ボランティア募集期間：11月1日（火）～11月11日（金）
集合場所：北小木町天王橋
※高校生以上の方対象。詳細は広報たじみ 11 月号をご覧ください。

▲ 令和４年５月に行った草刈の様子

1月　収蔵品展「やきもの入門ー多治見の近世編ー」

「やきもの入門ー多治見の古代中世編ー」に続く第２弾！今回は美濃焼が全国で使われるようになった江戸時代にスポットを当てます。

会期：令和5年1月16日（月）～6月23日（金）

▲ 織部徳利

文化財保護センター×陶磁器意匠研究所連携企画

「多治見のやきもの vol. 5　市之倉」

陶磁器意匠研究所との連携企画展で、市之倉のやきものの歴史を紹介します。

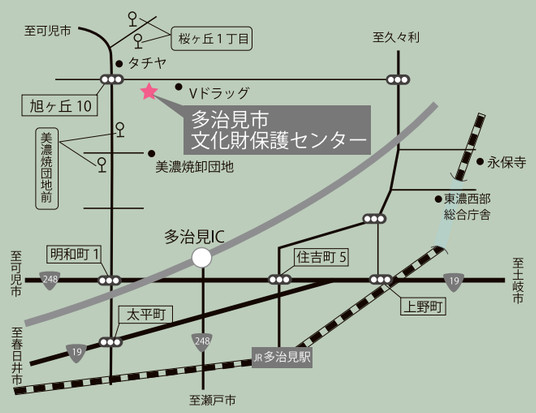
会期：令和5年1月27日（金）～3月5日（日）9:00～17:00
会場：多治見市陶磁器意匠研究所
※詳細は陶磁器意匠研究所HP（https://www.city.tajimi.lg.jp/ishoken/）に掲載予定です。

多治見市文化財保護センター

〒507-0071　岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26
TEL(0572)25-8633　FAX(0572)24-5033
E-mail:hogo-cen@city.tajimi.lg.jp
ホームページ :https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/

〈利用案内〉 開館時間：9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30）
休館日：土・日・祝日、年末年始
入場無料

〈交通案内〉 自動車：多治見 IC より車で 10 分
電車・バス：JR 多治見駅北口より東鉄バスにて
桜ヶ丘ハイツ線・緑ヶ丘線「桜ヶ丘１丁目」または
「美濃焼団地前」下車徒歩 5 分



twitter　instagram

自然と人の文化　No.60　2022 年 10 月発行
編集 / 発行　多治見市文化財保護センター
発行部数：1300 部（税込 48,334 円）　この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.60　2022.10

天然記念物

今年も北小木のホタルの生息数調査を行いました！

多治見市天然記念物に指定されている北小木のホタルについて、6月初めから7月半ばにかけて生息数の調査をしました。3年ぶりにボランティアを募集して行いました。

ゲンジボタルの発生数が最も多く観測できた日は6月9日で、6月前半が発生のピークでした。昨年までの調査結果によると、北小木のホタルは3年から4年の周期で大発生を繰り返しているため、今年は大発生の可能性があるという予測をしていました。結果は1,372匹となり、令和元年同様1,000匹を超える大発生となりました。また、ヘイケボタルの発生数は合計56匹という結果で、こちらも大発生となりました。

今後もホタルの生息環境の保護に努めていきます。ボランティアにご参加いただいた方々、北小木町の方々、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

令和４年６月 17 日撮影

▲ 初窯で焼いた白天目

▼窯作りの様子

青山双溪（そうけい）氏の窯作り

多治見市無形文化財「白天目（しろてんもく）」の技術保持者である青山双溪氏は白天目を焼くため、令和2年7月から約2年かけて16世紀の大窯を再現しました。窯の作製は全て手作りです。クレ（窯を作るレンガ）やエンゴロ（作品を入れる容器）も手作りしました。またダンパーを使って炎の流れを調節できるように工夫しました。

初窯は令和4年5月18日から21日にかけて行われました。なかなか上がらない窯内の温度に四苦八苦しましたが、灰釉がきれいに溶けて良い出来栄えの白天目が焼きあがりました。今後窯を手直しし、秋ごろに再度窯焚きをする予定です。

むかし体験わくわくミュージアム

小中学校の余裕教室を活用して、文化財保護センター所蔵の民具や発掘した遺物などを展示する「むかし体験わくわくミュージアム」を開設しました。今年度は南姫小学校と脇之島小学校の2校で行っています。

大昔の多治見を縄文土器や弥生土器で紹介し、やきものの歴史なども展示しています。また、昔の暮らしのコーナーでは、唐箕（とうみ）などの農具、羽釜やちゃぶ台、氷冷蔵庫など昭和中期までの暮らしを再現して展示しています。展示資料の一部は触ったり、動かしたりすることができ、体験を通じて子供たちに昔を知ってもらうことができます。このミュージアムは来年度以降も2校ずつ増やしていく予定です。

▲ 南姫小学校の展示風景

▲ 脇之島小学校の展示風景

企画展「多治見の鉄道史」～多治見における鉄道開通の意義～

▲ 多治見から鉄道で出荷された製品の例

多治見における鉄道開通の意義で最も重要なものは、主力産業である陶磁器産業の発展に資することです。多治見に中央線が開通した明治33年（1900）以来、鉄道を使った陶磁器輸送が盛んになり、多治見駅周辺は運送店や商人宿などが立ち並ぶほど発展を遂げました。笠原の飯茶碗や高田の徳利など、各地で作られた陶磁器が多治見の陶器商のもとに集結し、多治見駅から出荷されていきました。また、鉄道の開通によって全国各地の小売店にまで陶器商が出向くようになり、美濃焼の名が全国に浸透していきました。こうして多治見は全国でも有数の陶磁器生産地域へと発展しました。

新購入資料～西浦焼等陶磁器資料～

令和4年度に西浦焼を中心とした陶磁器資料110件（209点）を購入しました。これらの資料は明治時代に美濃や瀬戸、京都、佐賀などで作られたものです。美濃では西浦焼、加藤五輔（かとうごすけ）、松原栄助（まつばらえいすけ）、熊谷鉄蔵（くまがいてつぞう）、瀬戸では川本桝吉（かわもとますきち）、京都では松風嘉定（しょうふうかじょう）などの万国博覧会や内国勧業博覧会への出品歴がある生産者の作品や、西浦焼が影響を受けたルックウッドなどの海外作品も含まれます。現在その一部を多治見市役所駅北庁舎で展示しています。

▲ 加藤五輔磁器染付クリーマー

▲ ルックウッド釉下彩花木図花瓶

▲ 西浦焼金彩上絵花鳥図茶壷

多治見市陶磁器意匠研究所と３Ｄスキャナーの共同研究を行っています

今年度、多治見市陶磁器意匠研究所が所有する3Dスキャナーを使って、文化財保護センター所蔵資料を3Dバーチャルデータ化する共同研究を行っています。どういった資料がスキャンできるのかを、大きさや材質の異なる資料（収蔵品）を用いて検討しています。研究の成果報告として、来年1月27日から陶磁器意匠研究所で開催予定の「文化財保護センター×陶磁器意匠研究所連携企画　多治見のやきものvol.5　市之倉」や陶磁器意匠研究所と文化財保護センターのホームページで3Dデータの掲載を予定しています。

▲ ３Ｄスキャンの様子